

## コロナ禍中の学校休校による基礎学力不足を考える

開倫塾

塾長 林明夫

Q：コロナ禍で多くの学校が休校や授業の短縮を余儀なくされました。学力に影響はなかったとお考えですか。

A：(1) 小学校、中学校、高校などで授業を担当なさった先生方は、学校休校や授業短縮を補うよう、全力を傾注なさったと思われま

(2) ズームでの授業、宿題を出し添削、電話やメールでの指導など、ありとあらゆる取り組みをなさった先生が、数多くいらっしゃると思われま



(3) しかし、現実には厳しいものです。コロナ禍で学校休校や短縮授業のために、各学年に割り当てられた教科について、基礎学力が十分に身に着いていないまま、上級学校に進学したため、現在の大学1年生や専門学校の1・2年生、高校1・2年生、中学1・2年生の中には、十分に授業を受けていない内容を、今からでも学び直すことが求められる学生・生徒が存在すると思われま

Q：大学の授業にはついていけるのでしょうか。

A：(1) 大学では、高校時代の学校休校や授業短縮の影響は大きいようです。

(2) 特に、難関大学であればあるほど、高校で学ぶ全教科の授業内容の完全理解が前提となった授業が展開されます。

(3) コロナ禍前と同じようなレベルでの指導や評価が、極めて困難な学生が少なからず存在するのは、厳しい現実のようです。

(4) 単位を落とし、進級できず、退学を余儀なくされる学生も、少なからず存在するようです。



Q：どうしたらよいとお考えですか。

A：(1) 大学や専門学校は、入学を認めた学生の中で、高校内容の学力が不足していると思われる学生には、どんどん補習を組み、学力不足を補っていただきたく切望します。

(2) 大学や短期大学、専門学校に生徒を送り出す高校は、高校3年生の3月31日まで責任をもって、上級学校で必要な教科のうち、高校で学ぶべき内容の補習授業をしてあげていただきたく切望します。

(3) 大学の単位を落とした場合には、自分自身でしっかり学び直した上で、再履修。中学や高校内容でよくわからないところがあれば、そこまで遡ってじっくり学び直すのも大事です。



Q：学校休校や授業短縮のあった小学生・中学生・高校生を現在担当する、小学校・中学校・高校、  
もっと言えば学習塾は、どうしたらよいと考えますか。

A：(1) コロナ禍前の児童・生徒と比べ、明らかに学力不足、学習習慣不足、  
学習方法が身に着いていない場合には、決して放置しないこと。

(2) 担当する教科だけでなく、すべての教科について不足する学力を補  
ってあげてください。不足する学習習慣や身に着いていない学習方法を補ってあげてくださ  
い。

(3) コロナ禍の学校休校や授業短縮で十分に理解し、定着していないことは、この学年です  
べて補い、2024年度を迎えさせていただきたく切望します。



Q：就職先の企業や団体としては、どのように対応したらよいでしょうか。

A：(1) 高校や大学・専門学校で学ぶべき各教科の内容の、どこの知  
識がどのくらい不足しているのかを、採用試験後に調査し、入社  
前教育・入社後教育で徹底的に補うことが大切です。

(2) 学習習慣が欠けていたり、当然、備えているべき学習方法を  
身に着けていない場合には、ていねいに補うことも求められます。

(3) マニュアルや、基本的な情報を読み取る力が欠けている場合には、「読解力」を身に着  
けるために、「辞書・新聞・読書・図書館」に親しむ方法を伝授することが大切です。



Q：学習塾、予備校、私立学校の経営幹部の先生方にお伝えしたいことがありますか。

A：(1) 児童・生徒・学生にとって、毎回の先生方の授業ほど大切なものはありません。

(2) 今、教えるべき内容の「本質的理解」に迫るような、本格的な授業をお願いします。

(3) そのために、授業の準備、「レッスンプラン」、「授業の設計図」を、毎回練り上げるこ  
とをおすすめします。

Q：最後に一言どうぞ。

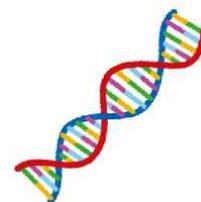
A：僭越ながら、今月も先生方がお読みになれば必ずお役に立つ本をご紹介します  
させていただきます。



(1) 1冊目は、渡辺京一著「逝きし世の面影」平凡社ライブラリー、平凡社 2005年9月9日  
刊です。2023年で41刷の大ベストセラーですので、すでにお読みになった  
先生も多いと思われます。まだお読みにならない先生は、是非お読み  
ください。明治維新前後に来日した外国人が、日本各地を見て歩き、当時の  
日本のすばらしさを記録したものを1冊にまとめたご著書です。ここに記  
された素晴らしさの多くが、日本人のDNAとして残っています。

(2) 2冊目は、ラフカディオ・ハーン著「神国日本、解明の一試論」東洋文庫、平凡社、1976  
年7月14日刊です。日本をこよなく愛したハーン、晩年の作品。明治時代の日本のすばら  
しさを知るのに役立ちます。「逝きし世の面影」とご一緒にお読みください。

(3) 3冊目は、丸山眞男著「日本政治思想史研究」東京大学出版会、1952年12月20日刊で  
す。「であることとすること」など示唆に富む論考が入っている、名著「日本の思想」岩波



新書、岩波書店 1961 年 11 月 20 日刊などをお読みにになり、丸山先生にご関心をお持ちの先生におすすめるのが、この「日本政治思想史研究」です。マックス・ウェーバーと同じように、噛めば噛むほど味わい深いのが、丸山先生のこの作品です。

(4) 4 冊目は、ベルンハルト・シュリンク著「朗読者」新潮社、2000 年 4 月 25 日刊です。「朗読」の大切さ、価値を、再認識した作品でした。名作です。

○すべての授業に「朗読」を取り入れたら、素晴らしい、感動的な授業となると確信します。

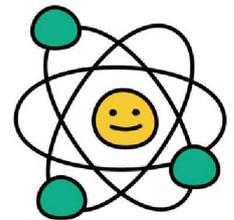
(5) 5 冊目は、田山花袋作「田舎教師」岩波文庫、岩波書店、1931 年 1 月 25 日刊です。同作「蒲団・一兵卒」岩波文庫、岩波書店 2002 年 11 月 20 日刊と同様、心理描写、美しい自然描写、情景描写は素晴らしいものです。

○先生と呼ばれる皆様の必読書。

(6) 6 冊目は、有島武郎作「一房の葡萄、他四編」岩波文庫、岩波書店 1988 年 12 月 16 日刊です。童話とはいえ、感性の塊（かたまり）ともいえる力作。

(7) 7 冊目は、グレゴリー・ベイトソン著「精神の生態学へ（上・中・下）」岩波文庫、岩波書店 2023 年刊です。同著、「精神と自然」岩波文庫、岩波書店、2022 年 1 月 14 日刊とともに、岩波文庫でベイトソンの 2 冊の名著に親しめるようになり、こんなにうれしいことはありません。チャレンジを！！

(8) 8 冊目は、池内了著「物理学の原理と法則、科学の基礎から『自然の論理』へ」講談社学術文庫、講談社 2021 年 2 月 9 日刊です。中学理科の先生の必読書です。



(9) 9 冊目は、「『ものづくり』の科学史、世界を変えた＜標準革命＞」講談社学術文庫、講談社 2012 年 8 月 8 日刊です。「標準化」は「生産性向上」の第一歩。教育分野も含め、サービス産業に最も欠けるのが「標準化」です。

(10) 10 冊目は、ルイス・ウォルパート、アリスン・リチャーズ著「科学者の熱い心、その知られざる素顔」ブルーバックス、講談社、1999 年 12 月 10 日刊です。一流研究者 23 人の内面に迫るインタビューです。是非、御一読を。

○読書の秋です。時間を見つけ、腰を落ち着いた読書で、じっくり、一語一語、著者との「時空を超えた対話」をいたしましょう。

2023 年 9 月 3 日記

